

| | | | | | | | |
|--|---|-----|------|---------|---------------------------|------------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 栄養と薬 (IB366) (実践的教育科目) | | | 担当教員 | 佐々木 裕、野村秀一 (実務経験のある教員) | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 3 年・後期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| 臨床に関わる管理栄養士は、薬の基本的事項や食品・栄養と薬物の相互作用について理解しておく必要がある。本科目では、薬物についての基本的事項、とくに薬物の吸収・代謝・排泄などの薬物体内動態、薬理作用、飲食物と薬物の相互作用などを理解して説明できることをそのねらいとしている。また、臨床的に良く用いられている薬剤について、その使用法、作用・副作用の概要を説明出来るようになるのが目標である。 | | | | | | | ① ② ③ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 薬の基本的事項、飲食物と薬の相互作用、薬の使用法、作用・副作用について体系的に理解している。修得した知識を臨床の現場で臨機応変に応用することができる。 | | | | ・定期試験 ・小テスト | 60% 15% | |
| 情報収集、分析力 | 薬に関する情報を収集するためのツールやメディアの特性について理解し、必要な情報を効率的に収集することができる。 | | | | ・定期試験 ・小テスト | 10% 5% | |
| 協働・課題解決力 | 栄養と薬に関する課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。 | | | | ・授業態度・授業への参加度 | 10% | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 評価点は、定期試験の結果を70%とし、10回目に実施する小テストの結果を20%として算定する。授業態度・授業への参加度は、授業中の態度、取り組み、関心・意欲、質問等に対する返答で、10%として評価する。小テストについては、授業において解説し、フィードバックをする。 | | | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | | | | | | | |
| これまでの実務経験を活かし、薬物治療と栄養との関連を開講する。具体的には、薬物の体内動態、薬理作用及びその他に関する基本的事項、薬物と飲食物の相互作用、また、臨床で良く使用される薬剤の使用法、作用・効果、副作用などに関する授業を行う。授業中には、できるだけ多くの質問を投げかけ、これに対するディスカッションの時間を設けている。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。 | | | | | | | |
| 教 科 書 ・ 参 考 書 | | | | | | | |
| 教科書：栄養科学シリーズNEXT「栄養薬学・薬理学入門」第2版 川添禎浩、古賀信幸（編）講談社 参考書：「食と薬の相互作用」山本勝彦、山中克己著 幸書房 指定図書：栄養科学シリーズNEXT「栄養薬学・薬理学入門」第2版 川添禎浩、古賀信幸（編）講談社 | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |

授業内容の理解を深めるために、事前に指定教科書に目を通し、概略を把握して授業に臨むこと。授業中の私語、携帯電話等は厳禁である。本科目の受講を通じて健康の維持・増進、疾病の予防及び治療における飲食物と薬物の重要性を理解し、日常生活においても飲食物と薬物の相互作用などに常に関心を持つことを期待する。

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|-----------------------------|---|--|
| 1 | 医薬品の基礎知識(1) | 薬とは、日本における医薬品 (野村) | 予習：教科書 p1～13 復習：日本における医薬品について |
| 2 | 医薬品の基礎知識(2) | 薬の種類：医療用医薬品と一般用医薬品 (野村) | 予習：教科書 p14～22 復習：医療用医薬品と一般用医薬品について |
| 3 | 医薬品の基礎知識(3) | 薬の剤形、薬の服用 (野村) | 予習：教科書 p23～38 復習：薬の剤形、服用について |
| 4 | 医薬品の体内動態 | 薬の動態、薬の吸収、薬の代謝、薬の排泄 (野村) | 予習：教科書 p39～52 復習：薬の代謝、排泄について |
| 5 | 医薬品の作用と副作用(1) | 薬を使用する目的、薬の効果に及ぼす影響 (佐々木) | 予習：教科書 p53～64 復習：薬の使用目的について |
| 6 | 医薬品の作用と副作用(2) | 薬の有害作用、薬害と健康食品による被害 (佐々木) | 予習：教科書 p65～76 復習：薬の有害作用、薬害について |
| 7 | 食品と医薬品に関する相互作用 | 食べ物と薬の相互作用、薬物相互作用、薬と食べ物の相互作用 (佐々木) | 予習：教科書 p77～92 復習：食べ物と薬の相互作用について |
| 8 | 栄養を補給する薬 | 栄養補給法、経腸栄養剤、静脈栄養剤 (佐々木) | 予習：教科書 p93～106 復習：栄養補給法、経腸栄養、静脈栄養について |
| 9 | 代謝・内分泌に作用する薬 | 糖尿病薬、脂質異常症薬、痛風薬 (佐々木) | 予習：教科書 p107～124 復習：糖尿病薬、脂質異常症薬、痛風薬について |
| 10 | 末梢神経・中枢神経に作用する薬 | 自律神経系、交感神経系、副交感神経系に作用する薬、向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、抗認知症薬 小テスト (佐々木) | 予習：教科書 p125～154 復習：精神神経に作用する薬について |
| 11 | 呼吸器・消化器に作用する薬 | 鎮咳剤、気管支喘息治療薬、去痰剤、健胃消化薬、制吐薬、消化性潰瘍治療薬 (佐々木) | 予習：教科書 p155～176 復習：呼吸器・消化管に作用する薬について |
| 12 | 循環器系治療薬 | 抗不整脈薬、心不全治療薬、狭心症治療薬、高血圧治療薬、止血薬、抗血栓薬、造血薬 (佐々木) | 予習：教科書 p177～196 復習：循環器に作用する薬について |
| 13 | 利尿薬・泌尿器に作用する薬、免疫、アレルギーに関する薬 | 利尿薬、排尿障害治療薬、前立腺肥大治療薬、糖輸送体に作用する薬、免疫抑制薬、抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬、炎症に効く薬、解熱鎮痛薬、抗リウマチ薬 (佐々木) | 予習：教科書 p197～220 復習：利尿薬・泌尿器に作用する薬、免疫、アレルギーに作用する薬について |
| 14 | 細菌、ウイルスなどに作用する薬 | 抗生物質、抗ウイルス薬、ワクチン (佐々木) | 予習：教科書 p221～228 復習：微生物に作用する薬について |
| 15 | がん治療薬 | がんの形成と薬、がん治療薬 (佐々木) | 予習：教科書 p229～237 復習：がん治療薬について |
| 16 | 定期試験 | | |

